

事業概要	アスレチック、キャンプ場、自然体験プログラム、ドッグラン、スキー教室、農園ほか
部署	受付
所在地	〒689-3319 鳥取県西伯郡大山町赤松634
連絡先	(電話番号)0859-53-8036 (E-mail)morinokuni@japro.com
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	お客様による自然とのかかわりを促進し、自然環境の持つさまざまな効用や価値を体験・発見していただき、自然環境の利活用と保全について考えていただくきっかけにしていきたい。そして多くの鳥取県大山のファン作り、鳥取県大山から自然とともに学び生きる楽しみや喜びを普及させていきたい。

ローカルSDGsの実現
に貢献できるソリュー
ション

分野 観光ビジネス／脱炭素／サーキュラーエコノミー／健康・福祉／資金調達

「1 貧困をなくそう」

売上の一部をユニセフ、国境なき医師団、日本赤十字社などへの継続的な寄付を行い、世界の貧困問題に対して5年前よりアプローチを開始しました。
これらの団体の活動を地域の高校生1, 2年生向けを対象とした社会人講義の中で毎年紹介し、どのようにしたら貧困解消に向けたアプローチができるか、また今後の進路や生き方について、どのような課題意識を持って活動すればよいか、啓蒙活動を行っています。

「13 気候変動に具体的な対策を」

木製遊具を薪として再利用し、灰を農園で活用するなど廃棄物の削減・有効利用の研究を行っています。また、薪作り施設があることで、地域の造園業者などより枝打ち材や間伐材などの産業廃棄物を無償で受け入れることで、産業廃棄物削減と資源の有効活用(薪にすることで)を行っています。
施設の屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを最大限活用することをスタートしました。

「15 陸の豊かさを守ろう」

施設とその周辺に、どんぐりなどの広葉樹の植樹、竹林の適正管理に取り組んでおり、健康な森作りを行っています。また周辺の集落と協力し、無農薬の稲を植えない田んぼビオトープを10年以上継続しており、その成果として多様な水性昆虫や、近年はゲンゴロウやメダカ、モリアオガエルなど希少な生物の生息地として確認できています。
田んぼビオトープにはゲンジボタル、ヘイケボタル、今年からヒメボタルも観察され、地域住民のホタル観察のいこいの場として提供しています。田んぼビオトープは地元テレビ局にも多様な水性生物が取材され、その豊かさを伝えています。これらの地域資源を使ったエコツーリズムに関する企画提案をすることができ、各地の自治体・企業へエコツーリズム規格造成に関してアドバイスを رفتり視察受け入れを行っています。

URL

13に関して

<http://www.sanin.com/site/page/daisen/institution/morinokuni2/communication/tanken/>

15に関して

http://www.sanin.com/site/page/daisen/institution/morinokuni2/taiken/tanbo_wanpaku/

上記ソリューションを
提供できる地域につ
いて

大山町、貧困解消については世界の紛争地域など

自者の特徴	<p>1978年にアスレチック事業として創業。その後、キャンプ場、体験プログラム、ドッグランなどを展開してきました。近年はエコツーリズム「ダウンヒルサイクリング」にて、 2014年第10回エコツーリズム大賞(特別賞)―環境省ほか― 2017年第3回ジャパンツーリズムアワード(ビジネス部門賞)―(一社)日本旅行業協会(JATA)ほか― 2018年地域未来牽引企業選出(経済産業省)を受賞いたしました。 詳細はこちら HP http://www.sanin.com/site/page/daisen/institution/morinokuni2/communication/oshirase/press/</p> <p>一貫して国立公園大山の魅力、地域の自然環境の魅力を味わっていただけるハード面、コンテンツを事業の中心としています。地元では大山町商工会、大山観光局などと連携し、地元の職場体験の受け入れ、小中学校の体育用品などもスポンサーになるなど、地域の自然やまちづくり、人づくりにも積極的です。 HP http://www.sanin.com/daisen/morinokuni/</p>
SDGs経営に向けた自者の課題や悩み	—